

### 《決算の概要》

#### 【連結】

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
28年3月期第2四半期	10,261(△1.3%)	1,104( 0.9%)	928( 5.9%)	629( △6.6%)
27年3月期第2四半期	10,394( 13.2%)	1,094( 756.7%)	876( - %)	673( 3,451.3%)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

#### 【個別】

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
28年3月期第2四半期	9,229(△1.5%)	998( △1.3%)	799(△3.5%)	559( △16.2%)
27年3月期第2四半期	9,369( 12.3%)	1,011( 617.6%)	829( - %)	668( 1,124.4%)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

#### <主要諸元>

項目	28年3月期 第2四半期	27年3月期 第2四半期
原油CIF価格(ドル/バレル)	58.9	109.5
為替レート(円/ドル)	122	103
原子力設備利用率(%)	0.0	0.0

### 《販売電力量》

(単位：百万kWh)

	特定規模需要以外の需要			特定規模 需要	合計
	電灯	電力	計		
28年3月期 第2四半期	10,271 (△1.8%)	1,695 (△1.0%)	11,966 (△1.7%)	23,889 (△1.0%)	35,855 (△1.2%)
27年3月期 第2四半期	10,463 (△3.3%)	1,712 (△1.8%)	12,175 (△3.1%)	24,132 (△0.0%)	36,307 (△1.1%)

(注) パーセント表示は、対前年同期増減率

(注) 個々の数値と合計欄の数値は、四捨五入の関係で一致しない場合があります。

## 《平成28年3月期（平成27年度）業績予想》

平成28年3月期通期の利益予想については、供給力の見通しが不透明であることなどから、費用を合理的に算定することが困難な状況であったため、これまで未定としておりましたが、今般、現時点における需給状況および経営効率化の検討状況などを踏まえ、業績予想を算定しましたのでお知らせいたします。

連結業績予想における売上高は、連結子会社のうち建設業などにおいて売上の増加が見込まれ、2兆1,100億円程度（前年度比3.3%減）となる見通しであることから、前回発表予想と比較し上方修正しております。

経常利益は、安定供給の維持に必要な修繕費の増加などがあるものの、燃料費調整制度のタイムラグ影響などによる一時的な利益増加要因に加え、経費全般にわたる効率化の継続により、前年度並みの1,150億円程度となる見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益については、750億円程度となる見通しです。

## ＜平成28年3月期（平成27年度）通期業績予想＞

### 【連結】

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想	21,000	—	—	—
今回発表予想	21,100	1,480	1,150	750
(参考)平成27年3月期	21,820	1,697	1,166	764

### 【個別】

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想	19,000	—	—	—
今回発表予想	19,000	1,260	900	630
(参考)平成27年3月期	19,516	1,405	892	624

## ＜主要諸元＞

項 目	今 回
販売電力量（億kWh）	771程度
原油CIF価格（ドル/バーレル）	60程度
為替レート（円/ドル）	121程度
原子力設備利用率（%）	0.0

## 《配 当》

当社は、配当につきましては、安定的な配当を行うことを基本に、当年度の業績や中長期的な収支見通しなどを総合的に勘案し決定することを基本的な方針としております。

当社の平成27年度の間配当につきましては、上記の基本的な方針および東日本大震災等により毀損した財務体質の回復の状況などを総合的に勘案し、平成26年度の期末配当金と同じく、1株当たり10円とさせていただきます。

なお、平成27年度の期末配当予想につきましては、今後の需給状況等を踏まえた通期の業績、原子力発電所の再稼働を巡る状況等を踏まえた中長期的な収支見通しおよび財務体質の今後の回復状況等を慎重に見極める必要があることから、引き続き未定としております。

以 上